

第24回 まちづくり懇談会の概要について

1. 懇談会のテーマ

- ・いざという時に備えた地域のつながりについて
- ・住みたくなる町寒川について

2. 日時、会場

令和4年2月5日（土）午後1時30分～3時30分
オンライン（Zoom）

3. 参加人数：8人（男4人・女4人）

4. 町出席者

木村町長、畑村副町長、戸村町民部長、岡野町民協働課長、
町民協働課協働推進担当職員

5. コーディネーター

寒川町まちづくり推進会議会長 杉下由輝氏

6. テーマ別の詳細について

- ①テーマ1…<P.2>
- ②テーマ2…<P.10 上段>
- ③その他…<P.17>

1. いざという時に備えた地域のつながりについて

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
<p>(コーディネーター) いざという時に備えた地域のつながりについて、町民の力、地域の連携が大切だと言われております。そこで、皆様からご提言、ご意見をお伺いしたいと思います。自己紹介を含め2分以内でご発言いただき、2名もしくは3名のお話をいただいたところで、町長のコメントをいただきたいと思います。では、私の方からご指名をさせていただきます。自己紹介を含めて2分以内でお願いいたします。</p>		
<p>【災害時の避難等について】 公助 4人の子どもの母をしておりません。 子どもが4人いると、災害が来た際、どのように子どもを守れば良いかわかりません。また、生後5か月の子どものもいるため、何を持って逃げればよいのかわかりません。</p>	<p>災害はいつ起きるか分からないのが実情であります。特に、地震等については予測が難しいです。台風の場合、時間予測はできますが、被害予測等は同様に困難です。 ハザードマップについて、洪水ハザードマップと内水ハザードマップを各世帯にお配りしております。</p>	<p>【町民安全課 災害対策担当】 避難所従事者や自治会(自主防災組織)等で構成される、避難所運営委員会にて、避難所運営マニュアルを作成していただいています。 毎年各避難所で施設管理者と共に、避難所のレイアウトや避難所開設時の対応などを確認する機会を設けています。</p>
<p>【各種ハザードマップについて】 公助 現在大学3年で、大学ではまちづくりを専攻しております。 相模川が非常に近い地域となっており、地震に加えて大雨、洪水などの災害もあります。地震のようなイレギュラーな災害と、大雨洪水等のようなハザードマップなどで準備のできる災害があるため、対応についてあらかじめ用意しておくことが大事なのではないかと考えます。 今、寒川町のハザードマップは洪水のハザードマップのみだと思うので、それ以外のハザードマップの設置も重要ではないかと考えています。</p>	<p>保存版となっておりますので、内容を確認していただき、平時のときから心がけをしていただき、災害に備えていただければと思います。 毎月第1日曜日を家族防災会議の日と設定し、午前10時頃に町内防災行政無線を使い、家族で話し合ってもらうテーマを放送しております。日頃から、災害に対する心の準備や対応の仕方、お住まいの地域の状況と土地の歴史について考えていただきたいと思います。災害発生時において、地域の状況を把握することは、災害発生時、非常に重要です。避難所等において、まだまだ課題がございます。地震だけでなく、水害が伴った場合、広域避難所で本当に十分なのかという課題もあります。これから、まだまだ町としても改善、検討すべき点が多々ございます。皆様のご意見を参考とさせていただきます。</p>	
<p>(コーディネーター) 月に一回、家族防災会議の日に、家族で地域のことを考える機会を利用することは非常に素晴らしいと思います。ハザードマップについても、学生、若い方の視点から洪水と内水ハザードマップに限らず、様々なハザードマップを提案していくことも面白いかなと感じました。</p>		

【子ども連れの避難の仕方及び避難所での過ごし方について】**共助**
公助

4人の子どもがおり、一番上は中学生、下の子は生後6か月の子育てをしています。

災害時、避難所に授乳の場所が確保されているのか、夜泣き等で子どもがうるさくしてしまう中、たくさんの方が集まるところに連れて行って良いのかというところが懸念点です。東日本大震災の際、保健師をしていた方から、子ども連れを対象とした窓口が設けられ、予め授乳等の場所がわかっていたため安心できたという地域があったことを聞きました。

寒川町として、災害が起きた際に子ども連れの家庭に向けた準備があるかについて、情報があたら教えていただきたいです。

【町内の福祉避難所について】**共助**
公助

私の子どもは自閉症という重い知的障害と共に生きています。現在、自閉症児・者親の会という団体に所属をしています。避難所のことで不安があり、参加しました。

自閉症の症状として、大きな声を出したり暴れるなどがあります。そのため、避難所に子どもを連れていくことは迷惑になってしまうのではないかと不安です。他の障がい者のある家庭に聞いても、迷惑になると感じ、避難所に行くことを諦めたり、遠慮したりする方が多いです。

地域の避難所に福祉スペースを設置している場合もありますが、自宅から直接避難ができる、福祉避難所を町内に設置していただきたいです。福祉団体では毎年、健康管理センターで障がい者の自助を促す

乳幼児の方や障害をお持ちの方の避難について、皆さんご心配な部分があります。町内に10カ所の広域避難所を設置しておりますが、主に学校施設を避難施設に設定しております。しかし、各地域で発生しているさまざまな災害の避難所の収容実態を見ますと、現在の広域避難所が十分に機能するかどうか、非常に心配しております。また、当然ながら、10カ所の収容能力には限度がございます。

特に水害の場合、夜間深夜等の時間帯もありますが、避難できる態勢というのは難しい部分となります。水害の際、今の10カ所の広域避難所が、避難所に適した場所なのかについて担当が再検討しております。また、福祉避難所の設置について、個々の福祉施設において収容可能な部分もありますが、具体的な対策ができていないのが実情であります。

災害発生時において、避難所や広域避難所の在り方は深刻な問題だと思っております。町民の多くの方は避難所へ行けば安心と考えますが、自宅の方が安全が確保されていると考える方もいらっしゃいます。そのような方の避難先も行政側が区分けを行うことで、避難の判断材料になるかと思います。

【町民安全課 災害対策担当】

避難所従事者や自治会(自主防災組織)等で構成される、避難所運営委員会にて、避難所運営マニュアルを作成していただいています。また、毎年各避難所で施設管理者と共に、避難所のレイアウトや避難所開設時の対応などを確認する機会を設けています。

福祉避難所の設置については、協定先の更なる拡充に努めるほか、協定締結先と災害時の施設の運用方法について検討していきます

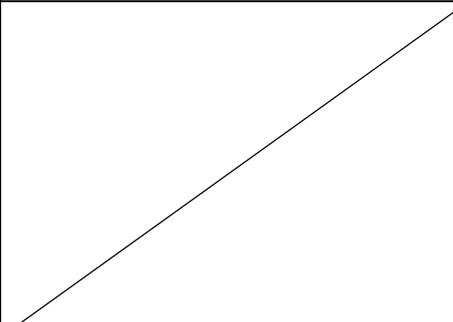
【子育て支援課】

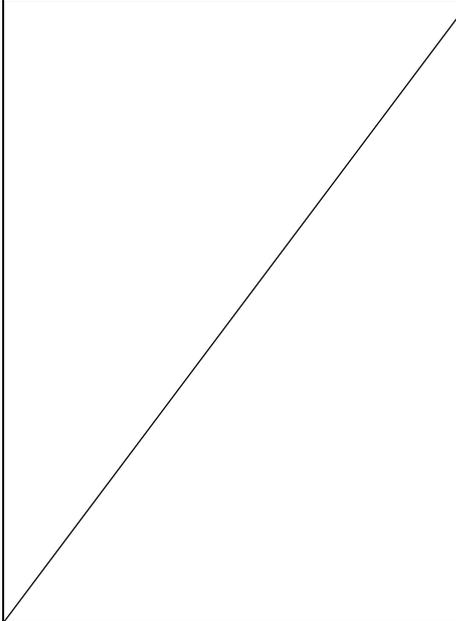
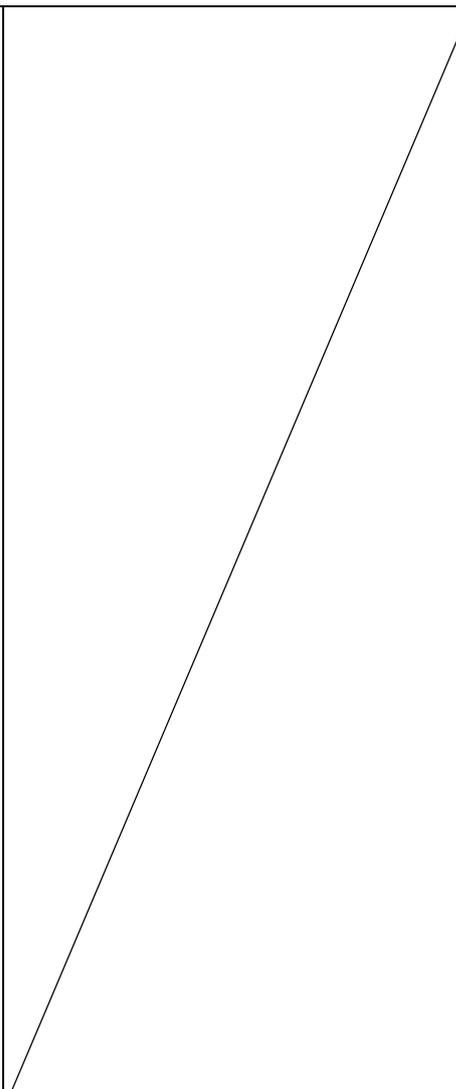
子育て支援課で作成している「さむかわ子育てガイド」のあかちゃんママの防災知識の中で、準備しておくことや最低限の持ち出しリスト等について掲載しています。町ホームページからもご覧いただけます。

<p>防災訓練を実施しています。もし、町内に福祉避難所があれば、避難をする場所で防災訓練が出来るので、場所に慣れることができ、避難がしやすくなると思います。</p>		
<p>（コーディネーター）東日本大震災の際、ストレス等の精神的にこたえる環境において、授乳ができなかったお母様がいらっしゃったそうです。粉ミルクを溶こうにも、お湯で溶かなければいけなく、お湯が沸けない環境では粉ミルクも使用できなかったそうです。授乳等の女性目線のご意見があると、しっかりサポートができるのかなと思います。</p> <p>避難所のスペースについては、歩くスピードの遅い障がい者や高齢者の方は、避難所に到着する時間が遅くなってしまいます。それにより、健常者の方が先に到着しスペースを確保してしまい、障がい者・高齢者の方はスペースを確保できなくなってしまいます。避難所のスペースの配置方法等も検討が必要になるかと思ます。その点で、福祉避難所のような新たな避難所の在り方もあってよいかと思ます。</p>	<p>（町民部長）</p> <p>10カ所ある広域避難所は、主に学校関係になります。事前に避難所の訓練を通しながら、必要に応じて授乳室等の部屋に誘導するという調整をしております。</p> <p>福祉避難所に関しましては、町内の介護施設や茅ヶ崎の養護学校と地域協定があります。災害時に、直接避難ができるような形を今後、話を詰めていき、安全安心に努めたいと思っております。</p>	
	<p>【地域活動への還元】 共助</p> <p>一之宮北自治会の会長を務めております。今、いろんな方のお話を聞くことができ、自治会で行う自主防災訓練等の運営方法の参考になりました。</p> <p>寒川町には3本の大きな川があり、地震はもとより水害が、一番の災害のテーマだと思います。そのような形で、自治会の防災備品、水害に備えた器具を準備しております。</p> <p>授乳・障がい者等への対応についても非常に参考になりました。既に、障がい者の方にも訓練には参加していただきました。</p>	<p>各自治会において、それぞれ自主防災訓練や自主防災組織が構成され、活動がされています。町のお伝えの仕方に課題がありますが、各自治会にとっても、防災に対する考え方・取組方に温度差があるのが実情であります。</p> <p>何を平準値、標準にするかという課題の話ではなく、モデル自治会や先進的な自治会の活動を参考にすることが大事です。各自治会長さんが集まる会議でも事例をお話しましたが、平準化など課題を要しているのが実情であります。自治会内の自主防災組織が活用されればより良いと思ます。町は、総合防災訓練という形で、年に1回各関係機関</p>
<p>【地域防災活動】 共助 公助</p> <p>官山の目久尻川のそばに住んで</p>		

<p>おります。</p> <p>さまざまな災害があるうちで、洪水が一番気にかかることです。洪水ハザードマップを見ますが、浸水域の設定が、大雑把だと思います。宮山の中里地域の浸水の高さは50センチから3メートルと大雑把な範囲で、果たして避難の判断基準になり得るのかと疑問があります。</p> <p>ここ数年、目久尻川は橋までもう少して届きそうということが何度かありましたが、氾濫して3メートルになることはない、だれも避難をしようとはしませんでした。中里の避難場所は旭中学校と設定されていますが、避難所に行くよりも、家の2階に垂直避難をした方がいいと思う方もいます。</p> <p>近所にはご高齢の方が多く、避難をする際、どうすればよいのかということがありますが、町内会長が積極的な方で、計画をしてくださいます。避難訓練や防災訓練を行う中で、災害時に役に立つのは日頃から地域の隣近所が仲良くしていることだと思います。相互に思いやることができれば、自然に助け合いの機運ができると思います。</p> <p>行政でも、大規模に正式な避難訓練を半年に1回、年に1回行うよりも、小規模な訓練を月一程度頻繁に行った方が効果があると考えております。</p>	<p>が集まり、訓練を行います。地域における自主防災組織を中心とした活動が必要だと思っております。</p> <p>神奈川県内で傾斜、急傾斜地がない自治体は寒川町と開成町です。開成町は平たんな土地柄ですが、標高が約40メートルから60メートルの高台にあります。一方、寒川町は標高が6メートルから26メートルと津波の心配がある場所に位置しております。川もあるため、河川や海岸からの遡上も含め、非常に災害が起こりやすいです。災害が起きた際、被害が拡散する危険性もございますので、日頃から防災意識を高めていただければと思っております。</p> <p>また、各自治体における防災機能の平準化、モデル自治会の事例の紹介も含め、皆さんに意識の高まりをお願いしてまいりたいと思います。</p>	
<p>(コーディネーター) 行政だけでなく、地域が行うことにも意見交換が参考になり、活用できる。これはまさに、協働のまちづくりのいいところなのかなと思います。</p>		
<p>【地域のつながり】 共助</p> <p>寒川に越してきて2年が経過しました。音楽を生業に、町民や認知症の方を対象とした会を健康福祉センター等で行っています。</p> <p>災害に対して、すべての人が高い意識を持っているわけではありま</p>	<p>コロナ禍という状況の中、皆様には人が集まる3密を避けなければいけないことや、感染症対策について、町ホームページや広報誌を通じてご協力いただいております。イベント開催が中止になってしまっていることが非常に残念だと思っ</p>	

<p>せん。お年寄りの方や認知症の疑いのある方で、一人暮らしをされている方などは自ら災害に関する情報を得られないと思います。</p> <p>町が隔々までフォローをすることや課題を一挙に解決することはかなり無理のあることだと感じています。災害はいつ起こるか分からないため、イベント等を通して、地道に町の方とつながっていければと思います。掲示板を注意深く見ている方も少ないため、つながりを通じて情報が隔々まで伝わり、助かる部分があると思っています。また、そのようなところで協力できればと思っています。</p>	<p>おります。オンライン会議もできますが、直接対面でお話しするに勝るものはないのかなと実感しております。コロナ禍になり3年目に入りますが、この生活様式、行動様式に慣れてはいけないと思います。</p> <p>コロナ禍でイベントの開催は難しいですが、安全策を講じながら、広いエリアに集えればと思いますので、そういったこともぜひお知恵をいただきたいと思っています。オンライン会議を通じて、皆様のご意見を聞く機会をこれからもつくり、進めていきたいと思っています。</p>	
<p>【町外の方の災害時の対応】 公助</p> <p>さむかわ音楽ひろばに属し、歌を歌わせていただいております。普段は建築の仕事をしております。</p> <p>イベントを通じてコミュニケーションをとることや、顔なじみになることは大切な活動の一つだと思っています。仕事柄流動的に多くの地域で仕事をしています。出先で災害にあった場合、その地域でお世話になると思います。寒川町でも、流動的にいらっしゃる方の受け入れ先や連絡方法等をより具体的に掲示できると不安もなくなるかと思っています。</p>		
<p>(コーディネーター) ここからは、災害対策についてフリーディスカッションを行いたいと思います。先ほどのご発言の追加でも、他の意見でも構いません。</p>		
<p>【子どものプライバシー等に係る避難所での課題】 共助 公助</p> <p>子連れの避難所生活について、先ほど授乳の話がありましたが、液体ミルクが準備されているのか確認がしたいです。また消毒をして授乳を行うので、哺乳瓶や液体ミルクにおいても消毒ができないと衛生的に良くないかと思っています。東北大震</p>	<p>コロナウイルス感染症対策において、避難所の中でプライバシーの確保が挙げられます。現在、プライバシーを確保できるテントや人目を避けられるものを、各避難施設に配置をしているところであります。時間経過のなかで、段階的に質・量を備えてまいりたいと考えております。</p>	<p>【町民安全課 災害対策担当】</p> <p>避難所運営マニュアルにおける、避難所運営の基本原則として、プライバシーの保護に努めると定めており、その方針にもとづいたマニュアルの作成をお願いしています。</p> <p>避難食としてのビスケットについては、今年も購入予定です。</p>

<p>災の体験談で、紙コップを使い授乳したことを聞きました。そのような知識を周知してあげるのもよいかと思えます。</p> <p>東北大震災の際、みんなが精神的にまいっている中、子どもが一人でトイレに行った際、体を触られる等の被害があったそうです。そのような対策も必要だと思えます。</p> <p>もう一点、子どもたちが避難食を食べられないことがあったそうです。子どもが食べられるような避難食の改善が必要だと思えます。</p>	<p>(町民部長)</p> <p>液体ミルクについて、現在、当町には数十本程度しか在庫がありません。</p> <p>避難所の夜間の安全安心の確保に関しましては、職員だけでは対応ができない部分もあり、新型コロナウイルス感染症対策に合わせて、各避難所の避難所運営マニュアルの改訂を進めております。その中には、避難所の運営が長期化となった場合、避難者の方々にも運営に参加していただくということも含めまして、安全安心の確保に関するマニュアルの整備を図っています。</p> <p>子どもの避難食について、ビスケット型の避難食等の確保を検討していきたいと思えます。</p>	
<p>(コーディネーター) 子育てをしている現役世代のお母様が集まって、避難所の在り方について話し合うような検討会があっても面白いのかなと感じました。</p>		
<p>【福祉避難所の動向】 共助</p> <p>先ほど福祉避難所のお願いをさせていただきましたが、具体的に福祉施設になり得る候補となる建物があるかどうかについてと、見通しのようなものがあるかについてお伺いしたいです。</p>	<p>福祉避難所については、介護施設あるいは福祉施設等がございます。収容可能人数に限界があるかと思えますが、受け入れ可能とのお話はいただいております。具体的に何人の収容が可能か数字はまだ出ておりません。現在、福祉避難所として、適する場所かどうかを町内の企業さん含め、話をしております。</p> <p>福祉避難所として適する避難施設が出来上がった段階で、町民の皆様にお知らせいたします。現在、施設の拡充に努めている段階でございますので、よろしくお願いたします。</p>	<p>【町民安全課 災害対策担当】</p> <p>福祉避難所の設置については、協定先の更なる拡充に努めるほか、協定締結先と災害時の施設の運用方法について検討していきます。</p>
<p>【契約避難所について】 共助</p> <p>茅ヶ崎市では100名以上を収容できる、民間のマンションを一時避難所として契約しているという話があります。</p> <p>寒川町の場合、高い建物があまりなく、よその方が入ってくるのは嫌</p>	<p>茅ヶ崎の話がありましたが、茅ヶ崎のビル等については、津波の避難という意味合いが非常に強いという認識をしております。お住いのマンションや集合住宅を、避難所として提供していただくのは課題が多いと思っております。ただ、今お話し</p>	

<p>だというのが住民感情だと思えます。そのため、企業の3階以上の建物や、宮山の中里地域では寒川病院や参集殿などの、公共性の高い建物を一時避難所としてお願いできればと思います。</p>	<p>にあったように、収容人数がある程度見込める寒川神社の参集殿や各神社の社務所を一時避難所として使用することは可能かと思っております。</p> <p>地震の場合は各学校でも対応できますが、水害の場合は場所の選定を考えなければいけないため、災害の種類によって避難する場所も分けていかなければならない段階に来ております。そのような点も踏まえ、拡充に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。</p>	
<p>(コーディネーター) 藤沢市の事例を紹介させていただきます。津波で高台まで避難するのに時間がかかるということで、海沿いの5階建て以上のマンションは、一時避難ビルとして市と災害協定を結んでいます。オートロックによりドアの開錠ができない場合、石等で壊しても構わないとしています。津波から命を守ることを優先とするため、避難に伴う破損は藤沢市が災害後全額補償をするとしています。</p> <p>町長から話があったとおり、災害の種類によっても対応の仕方は多様化しているかなと思います。前向きなコメントもいただきましたので、参加者の発言をうまく吸い上げていただければと思います。</p>		
<p>【災害時の避難所収容人数について】<u>公助</u></p> <p>2年前に大豪雨が発生し、相模川が氾濫するのではないかとということがありました。その際、小・中学校への避難勧告が出ましたが、足を運んだ先は収容人数を超えており、入れませんでした。</p> <p>そのような点から、避難所としての収容人数を住民に公表する場所や災害時に収容人数がどれくらいであと何人入れるのかを知らせていただけたら有難いと思います。現状、そのようなものはありますでしょうか。</p>	<p>当時、相模川上流にある城山ダムが、大豪雨の影響で貯蓄する水を支えきれないことを懸念し、緊急放流しました。放流後に市町村へ連絡が来るといった事態も起こり、これ以降、県の方針が変わったと聞いています。災害時、避難所の定員・収容人数の能力を超えているところもありました。</p> <p>昨年、避難所の混雑状況をスマホやパソコンで見られるシステムを開発している企業と協定を結びました。現在、企業の努力も含め、対応を進めております。</p> <p>大前提として収容人数が何人かということがあります。コロナの状況下において、現状の収容人数から差し引きが必要となり、収容能力が困難な状況になっております。広域避難所も10カ所で足りているという認識はございません。さらなる拡充を進めていきたいと思っておりますので、様々な団体、企業等の協力を</p>	

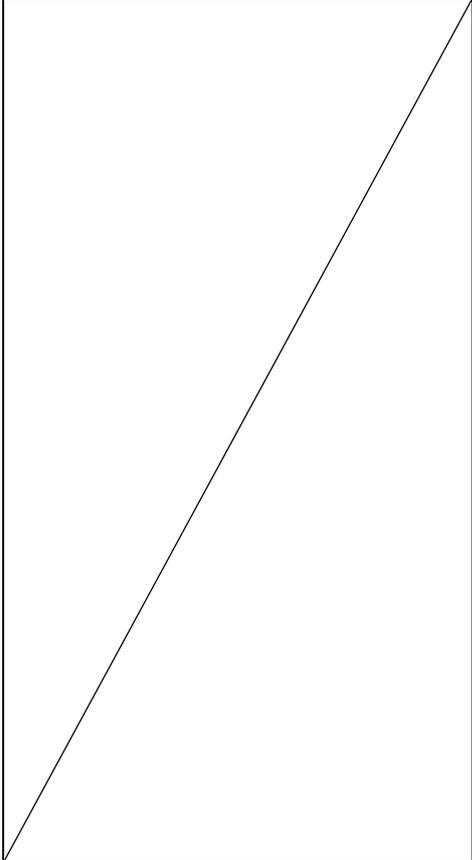
	<p>いただきながら努めてまいりたいと思います。</p>	
<p>(コーディネーター) ご意見あるかと思いますが、テーマを2つ用意しているの、次の方に進みたいと思います。全体的に災害についていろんなご意見をいただきましたが、町長、副町長から何か感じたこと等コメントがあれば総括をいただけると幸いです。</p>		
	<p>常日頃から思っていることは、世代を超えて全町民に共通する部分の安全の確保と健康づくり、そして環境対策の3つの視点で行政運営を進めていくことです。3つの要素をクリアして初めて、文化・教育・スポーツ等の事業展開に繋がると思っております。</p> <p>行政がやらなければいけないが、行政だけではなし得ないことをご理解いただきたいです。協働のまちづくりを進めておりますが、行政のみならず町民の皆様、町内の事業所、それぞれの立場で意味や役割を担っていただくことで、課題を少しでも改善に結びつけていければと思っております。</p>	
	<p>(副町長)</p> <p>貴重なご意見をありがとうございます。一昨年、昨年にかけて、広域避難所の避難所運営マニュアルを自治会の皆様と関係団体のご協力をいただき改訂いたしました。それに基づき、避難所運営訓練も何度か行っております。</p> <p>マニュアルというものは完成形がなく、避難所訓練をしながらご意見をいただき改訂をしていかなければならないと思っております。先ほど、授乳や子どもの見守り、障がいのある方への対応等のご意見をいただきました。これらをマニュアルに反映させていきたいと思っておりますし、災害時にすべてを活かすことは難しいかもしれませんが、訓練に訓練を重ね、精度を高めていきたいと思っております。</p>	

	<p>担当部局にもしっかりと声を届け、新たな次のステップに向けて進んでいきたいと思っております。</p>	
<p>(コーディネーター) 東日本大震災の際、地元の町内会長を務めており、町内で避難所が一番多い地域でした。当時、一つの部屋に幼稚園児30名程と3名の先生が避難していました。園児が混乱状態にいる中、避難所の学校に通う小学生が絵本を園児に読み聞かせをしてくれ、落ち着かせてくれたことがありました。大人にしかできないこともあります。子どもたちも自分に何ができるのかを考えていると感じました。災害時、平常心になることは大切なことの一つだと思います。</p>		

2. 住みたくなる町寒川について

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
<p>(コーディネーター) 2つ目のテーマに移ります。次は「住みたくなる町寒川について」、移住・定住、まちづくりについてお聞きしたいと思います。全国的に少子高齢化や人口減少が進み、町の地域力を上げるには、若い世代が住み続けたい、住んでみたいと思えるまちづくりが重要だと考えております。現在、雇用機会の確保と産業の創出、若い世代の子育ての環境の整備、町の魅力向上と認知度の向上の3つを中心に行ってきておりますが、バージョンアップだけでなく、新たな取り組みもしていかなければいけない現状がございます。そこで、皆様から具体的で現実的なご提言をお伺いしたいと思います。</p>		
<p>【コロナ禍における教育環境】公 助</p> <p>コロナ禍の今、子どもたちが安心して学べる環境を素早く整えてくれるような町であってほしいと思っております。コロナの流行により、学級閉鎖や学年閉鎖が身近になってきました。子どもには自主休校・休園をさせています。</p> <p>学級閉鎖を行っているクラスで、オンライン授業を導入している学校もあるそうです。通わせている学校ではオンライン授業ができていない状況です。コロナ禍になり3年が経過するにもかかわらず、いつになったらできるのだろうと思っています。</p> <p>Twitterで見たのですが、大阪府の寝屋川市では2020年6月にライブ授業選択登校制を取り入れ、家から授業を受けられる状況になっています。これは、コロナ禍においてリスクの軽減にもなる</p>	<p>コロナの状況下において、小中学校の学級閉鎖や学年閉鎖が広まっています。先ほど、オンライン授業の話がありました。既に寒川町も、文部科学省の指導に従い、GIGAスクールという児童生徒全員にタブレットが行き届いています。しかしながら、学級閉鎖・学年閉鎖になっている学校において、タブレットを活用しオンライン授業が実施されているかと言いますと、クラスによって差があるのが実情だと聞いております。</p> <p>これは教師の技術の問題もあろうかと思えます。外国の状況を見ると、かなり進んでいる取組をされているところもございます。コロナの収束がまだ見えない状況下で、オンライン授業の徹底を図っていく必要があるかと思えます。新聞等によりますと、教師が感染し、自宅からオンライン授業を行ったという事例があるようです。自宅での授業ができるように、教育委員会にも十分伝えてい</p>	

<p>と思います。</p> <p>パソコンが得意な先生がいるいないによって、オンライン授業の導入に差が出ていることが現状ですが、横の繋がりを持つことで解消できるのではと思います。教育委員会等がまとめ、学校ごとにオンラインを進めていただければと思っています。</p>	<p>きたいと思います。</p>	
<p>【移住者政策について】 公助</p> <p>住みたくなるまちづくりとして、子育ての面の充実が寒川町は環境として、とても整っていると感じています。都市部への人口が集中している中、田んぼ等の自然環境が整っている寒川町を、より住みやすいまちづくりをメインに、移住者政策として進めていくべきではないかと考えます。</p> <p>子育てという面で非常にハードルが高くなっているため、行政側から補助金や子育て支援のコミュニティ等の創出を進めていければ非常に効果的ではないかと考えます。</p>	<p>移住者政策について、移住・転入者アンケートを実施していますが、住んでみて良さがわかったとのご意見を多くいただきます。しかしながら、住みたいとの思いから移住したとの声はなかなか聞こえてこない部分であります。そのような点で、魅力づくりが大切であると考えており、お話がありました、子育てという部分は、一番の魅力だと思います。</p> <p>昨年の施政方針の中において、湘南エリアで子育てしやすい町を目指しますという話をいたしました。子どもたちが安心できる、また保護者が安心して子どもたちの成長を見守れる。そのような環境の実現を寒川町で進めていきたいと思っています。</p> <p>どのような魅力があるのか、様々な部分で子どもに対する対応策を講じておりますが、これがすべてだとは思っておりません。まだまだ足りない部分は積み重ねて進めていきたいと思っています。</p>	
<p>【町の産後ケアについて】 公助</p> <p>総合計画を読ませていただき、2040年問題に対して町が取り組んでいることを勉強しました。是非、産後ケアについて拡充を図っていただきたいです。中野区は多くのお母さんに産後ケアを受けてもらいたいということで、妊娠中にこども商品券を配布し、産後</p>	<p>子育てや産後ケアの充実について、寒川町は以前から妊産婦の対応や、保健師又は助産師による乳幼児の状況把握を行っております。国の対応も変わりつつあり、法律もより細かい部分まで市町村へ義務付けがなされています。寒川町でも保健師と助産師の増員や不妊・不育症の対応を行っております。子どもたちが</p>	

<p>ケアの利用につなげているそうです。キャンセル待ちが多い状況で、非常にニーズのある事業だと感じますが、産後ケアについてご存じない方もいらっしゃいます。昨年の4月から、産後ケアが法制化され、産後休暇や育児支援の法律の努力義務化が市町村でされたと思います。特に神奈川県は産後ケアを市町村に委ねているところが大きいので、町としての取組状況をお聞きしたいです。コロナ禍や核家族化によって家族の支援が得られない方や、転入により親元から離れた若いご家族も増えていきます。お母さんたちをサポートするような産後ケアにぜひ力を入れていただきたいです。</p>	<p>健やかに成長できるよう、これからも環境づくりに努めてまいります。</p>	
<p>【道路交通問題について】 公助</p> <p>障がいのある息子と並んで歩くことが多いのですが、歩道が突然なくなったり、狭くなったりすることがあります。また、道が斜めになっているところもあり、車椅子を押している方の移動が難しいことがあります。</p> <p>空き地から、新築が建つ際に道幅について期待をするのですが、結局は狭い道幅になっています。道が入り組んでおり、迷子になることもあります。道路・歩道の整備がきちんとなされていないイメージがあります。</p> <p>寒川駅南口に神奈中のバスが停車しますが、寒川駅南口ロータリーから駅までの動線がわかりづらいです。もう少し駅に近づけ、つながりをよくしていただきたいです。</p>	<p>道路問題について、町内の県道については歩道がございませぬ。町が管理する道路：町道については、歩道のない道が多くあります。この状況において、道幅を拡張したくても家が建ち並んでいるため難しく、用地買収も多額の経費や時間、地権者の了承の獲得をするのに困難を極めております。</p> <p>車道に加え、歩道の設置を考えた場合、道路の機能を変えていく必要があります。車を制約なく通すことは、交通の危険や安全性の確保において困難が生じます。そのため、現在、道路の機能を見直すように担当課に指示しております。幹線町道と生活道路において、歩行者の安全確保は車の不便を来しても、第一優先として捉えなければならないと考えております。</p> <p>南口のバス転回場から駅へのアクセスが悪いことについて、様々な理由から場所を移動させた結果であります。しかしながら、寒川駅北口の</p>	<p>【道路課 整備担当】</p> <p>通勤通学路の歩道の整備については、優先順位を定め、可能な限り整備を行っているところでございませぬ。しかしながら、用地の確保には多くの費用と沿線住民のみなさまのご理解ご協力が必要であり、早急な対応が困難なのが実情です。そのような場合は代替案として、グリーンベルトの設置による歩車分離を通学路を中心に進めております。</p> <p>【都市計画課 都市計画・開発指導担当】</p> <p>交通施策の一環として、歩行者や車両等における一層安全で利便性の高い移動の実現に向け、道路ネットワークの構築や機能向上の検討を進めます。</p>

	<p>整備が終わりました。次は、南口駅前も含めた整備を進めていく予定で準備を進めております。駅近くに大きなロータリーを設置するのではなく、自家用車の転回場をつくる話が出ております。転回場から南口までアクセスのしやすい表示、また、寒川駅南口駅前通りの道路の形態について、改善を進めていきたいと思っております。</p>	
<p>【前テーマ：町LINEの活用】 避難所の収容人数の通知について、寒川町のLINEで『防災関連』→『避難所情報』→『避難所開設情報』に進んでいくと、避難所を開設しているのか、閉めているのかの簡単な情報ではありますが、見ることができます。</p>		
<p>【寒川町の認知度について】 公助 町の大きなシンボルとして、『「高座」のころ。』がありますが、アンケートによると若い人から高座に対して古いというイメージがあるとの意見が出ています。また、寒川町が花の町さむかわという認知度も低く、あまり知られていません。カヌー体験も大きなイベントとして広報していますが、64%の認知度で止まっています。観光資源が乏しいのではないかと思います。 住みよい町寒川にするためには、子育てがしやすいということも大きなテーマですが、認知度に対する課題を考え、改善させることもするべきだと思います。</p>	<p>情報の発信の仕方について、工夫が必要だと感じています。高座という言葉はいにしえから伝わる文化と捉える方もいらっしゃいますが、広く多くの方に『「高座」のころ。』、ブランディング政策を理解してもらうためには、まだまだ伝わりきっていない部分があるかと思えます。町の本質は『「高座」のころ。』の言葉に凝縮されているということを皆さんの気持ちの中に受け入れていただけない部分がまだあるのかなという思いがします。 現在、NHKの大河ドラマで寒川町とゆかりのある武士の名前が出ております。新たな資源を作り出すのではなく、町に潜在的に存在している、今ある資源を皆さんに認識してもらうことが大事だと思っています。</p>	
<p>【道路事情】 公助 住みたくなる町寒川について、幾つか要件があるかと思えます。寒川のいいところはたくさんありますが、改善する点も多くありま</p>	<p>町道の舗装や移動手段、利便性の改善について、生活をするうえで、生活道路は歩行者が安全に移動できるスペースであり、車のための道路であってはいけないと考えておりま</p>	

<p>す。一番目に付くのは、道路事情です。年配の方や、小さなお子さんが移動する道としては、適当ではないと考えます。</p> <p>狭い歩道や車道の新旧舗装道路のつなぎ目の高低差、舗装の精度、雨天後の水たまり等が気になります。高齢者の方が電動カートで買い物をする際、無事に目的地まで行けるか、小さいお子さんがつまづかないかが懸念点です。</p> <p>寒川町は交通事故の60%が町道で起きています。町道は生活道路としての側面が強く、道路状況と事故は無関係ではないと思います。例えば、道の両側に側溝がある場合、自転車は通行できますが電動カートの通行は困難です。以前、議会で公共交通の在り方についての質問がありましたが、道路事情の悪さが目立っているのだと思います。</p> <p>道路工事をする際に、継ぎ目が出ないようにする等の心構えが道路事情をよくするのだと思います。人の移動の自由を保障することは、都市の機能に対してとても大事なことなので、ぜひ真面目に取り組んでいただきたいです。</p>	<p>す。改善が必要だと感じる箇所がございますので、道路の舗装面の改善を含め、移動空間、移動手段の改善に努めていきたいと思っています。</p>	
<p>【地域コミュニティとまちづくりについて】共助</p> <p>最近越してきた者ですが、越した理由は、身近に信頼できる人や知り合いができ、何かあった際に相談に乗ってもらえるからです。資源や建物が綺麗ということや、病院が多いということも大事だと思いますが、だれが住んでいるのかという点がとても重要だと思います。</p> <p>寒川町はサービスやお店があまりなく、商店街も盛んではないと</p>	<p>人のつながりや人とつながることが非常に大事だと思っております。町の総合計画において、「つながる力で新化するまち」と将来像を設定しております。人の気持ちや、人と人が繋がることは、行政やまちづくりだけではなし得ません。町民の方や事業展開をされている企業の皆さん、年齢の異なる子供から高齢の方まで、様々な分野の方が繋がることによって寒川が「新化、新しく化ける」変わることを理解していただきたいです。人も資源であります。人</p>	

<p>感じています。町の顔が知られており、若い人が起業や、支援で店から商品やサービスを買うという流れの方が、寒川町にはあっていると思います。</p> <p>サービスでお金をとることがいけないと言い始めると企業は育たず、ボランティアだけが良い印象をもたれてしまいます。企業を育てること、ボランティアと協力することが必要だと思ひます。</p>	<p>の流れがあることは、活力にも繋がります。</p> <p>北口の土地区画整理が終わり、商業地域や近隣商業地域という用途ができています。しかし、その用途としての土地利用はあまりされておられません。事業展開をしてもらうためには、雰囲気や環境づくり、行政からの後押しが必要になると考えておりますので、今後対応を進めたいと思ひます。</p>	
<p>【コミュニティの創出について】</p> <p>共助</p> <p>多くの方がいいものを持っているのにも関わらず、横のつながりがなく活用しきれていないことが現状だと感じます。つながって初めて活かしていける環境にしなければいけないと思ひます。商店街があまりなく、ガイドマップの様なものも目にしないため、どこに何があるか分かりません。町民を巻き込んだ、自然と何かを作り出せるまちづくりが、町民の力を合わせて何かを創出するという雰囲気づくりにつながるかと思ひます。</p>	<p>協働のまちというのは、周りの皆さんを巻き込むということだと思ひておりますので、これからもそういったまちづくりに取り組んでいきたいと思ひております。</p>	
<p>【空家問題と有効活用について】</p> <p>共助 公助</p> <p>地主さんの高齢化に伴う、空家問題も気になります。空家の活用を進めることができれば、若い世代がより活発に活動でき、周りも支援したいとなるのではないかと思ひます。その橋渡しや出会いの場を町が作り、1人の力ではできないことを協働で進めていければ、とても良いかと思ひます。</p>	<p>空家対策計画についてすでに策定をいたしました。幸いなことに、危険な家屋や、犯罪を助長するような空家等の報告はありません。現に岡田地内にある空家については、有効活用がなされています。有効的に活用できる空家については、所有者の了承をいただき利用したい考えでおります。危険な箇所、不測の事態が予想される建物については、所有者と相談し善処していただく形で進めております。</p>	
<p>(コーディネーター) 皆様からご発言をいただきました。ここからはフリーディスカッションの時間とし、1分以内で追加のご発言等々いただければと思ひます。</p>		

<p>【授業形態と産後ケア】 共助 公助</p> <p>先ほどオンライン授業の話で、教育委員会にお話をさせていただけるとのことでしたが、前々から教育委員会には伝えております。対面授業が大事だという話もいただきましたが、できる限り速やかに進めていただきたいと思います。コロナ禍に限らず、学校に通えない子たちも映像を見るだけの家で授業を受けられる形があってもよいと思います。学校または、自宅で授業を受ける選択ができる環境を整えていただけたらと思います。</p> <p>寒川町の産後ケアについて、4人目でも不安を感じる部分があったため、受けさせていただきました。産後ケアについて多くの方に知っていただきたいと思います。コロナ禍ということもあり、立会いも面会も一切できない産前がとても不安でした。SNSで出産が不安だと言っていた際、茅ヶ崎の助産師さんから出産に関するイベントを開催していることを聞きました。助産師さんや同じ環境のママさんたちと会話をするだけで心が楽になりました。寒川でも産前に、話ができる場所があればと思います。</p>	<p>コロナ禍における学習環境は十分満足ができる状況ではないと感じております。教育委員会に全て委ねるのではなく、教育委員会をはじめ教育委員さんとの会議の場も当然ございます。コロナが続く状況下において、子どもたちに対する教育の在り方について、様々ご意見いただいております。環境づくりに努めていきたいと思っております。</p>	
<p>【協働について】 公助</p> <p>協働を目指すのであれば、町民の意見くみ取り方が大事だと思います。町長への手紙について、町長が一番にアクションをするべきだと思います。協働を進めるために行政としてやらなければならないことが、どこまでできていて、何をしようとしているのかについて、お聞きしたいです。</p>	<p>町長への手紙は、私への手紙ですから、私が目を通し内容を確認した上で回答をさせていただいております。具体的な回答については担当課の方にも指示しております。これからも、注意して内容を確認してまいります。</p>	

3. その他

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
<p>(コーディネーター) 時間も限られているので、寒川町に対する思いや提案があれば、併せてご発言いただければと思います。</p>		
<p>【倉見駅周辺の夜道】 公助</p> <p>倉見駅周辺は寒川駅や宮山駅周辺と異なり、街灯の個数が非常に少なく、夜間は、暗くなってしまいます。夜の移動や帰宅、帰路もありますので、可能であれば街灯の本数、又はLEDにすることで明るくしていただけたらと思います。予算等あるかと思しますので、頭の片隅にでも入れていただけたらと思います。</p>	<p>防犯灯や街路灯（商店街）、道路照明（県道）と機能はそれぞれ異なりますが、設置しております。また、町内の防犯灯はすべて LED 対応しております。しかしながら、電柱のないところは、やはり暗い感じがすることから、別途小柱を立て照明を取り付けるという形で、少しでも暗い場所の改善を図りたいと思います。</p>	<p>【町民安全課 防犯・交通安全担当】</p> <p>歩行者の安全のため、夜間の防犯を目的に設置する照明が防犯灯です。町内の防犯灯は現在 LED 防犯灯になっており、町内に約 3650 灯（2022 年 3 月末時点）あります。基本は電柱や電信柱に添架させていただいており、自治会の協力のもと、必要な箇所の設置要望を挙げて頂き毎年新しく設置をしております（令和 3 年度 18 灯設置、令和 4 年度 35 灯当初予算）。電柱や電信柱が無い箇所の要望があった際は地権者の承諾が得られれば民地に小柱を建てさせていただき防犯灯を設置して、暗い場所の改善を図っております。</p> <p>【道路課 整備担当】</p> <p>道路照明施設計画の方針に基づき道路照明としての必要性が高い施設は、LED 道路照明灯に順次更新してまいります。 (※倉見駅周辺に道路課管理の照明なし。)</p>
<p>【防犯灯について】</p> <p>私は自治会長ですが、年に一回、自治会を通して町に防犯灯の設置を申請することができます。防犯灯を立てられるか立てられないかは町の判断にゆだねられますが、年に一回要望がありますので、その際に出していただければと思います。</p>		
<p>(コーディネーター) 町をつくるというのは、行政だけでなく町民や企業さんであったりします。お互いの情報を共有し合って、問題を解決していくことが理想的なのでとても良い意見だと思います。</p>		
<p>【町民活動の周知について】 共助</p>	<p>まちづくりの他自治体で行って</p>	<p>【町民協働課 協働推進担当】</p>

<p>公助</p> <p>何をするにも、お金がかかることはわかっていて、その中でできること・できないことを絞り出し、伸ばしていくまちづくりを行っていると感じました。</p> <p>子育て支援に関して、行政だけでなく民間や個人レベルで、地域の子育てをする環境をつくっていかねばならないと感じました。お金を、行政ではなく民間や地域で生むことや、地域が共同してイベントを開催することを寒川でできればと感じています。「広報さむかわ」を活用し、町民の活動やイベントをアピールしていければと思いますので、ご検討ください。</p>	<p>いる良い事例は積極的に取り入れていきたいと思っております。寒川町では、協働事業提案制度という事業展開をしております。趣旨が異なってしまうかもしれませんが、町民の活動を支援するような対応策も考えております。具体的な事例等を確認していますので、ご意見等あれば、お寄せいただければと思います。</p>	<p>協働事業提案制度について、令和5年度の提案事業の相談を5月6日まで受け付けておりました。今年度は3事業が活動、昨年度は1事業が協働活動を行っております。今年度活動の協働事業を含めると、累計して20の提案事業がこの制度を活用しています。</p>
<p>【町のリサイクル率について】公助</p> <p>資源物の廃棄ボランティアをしていて、夕方1時間立ち会っております。皆さん、分別して捨てたり、ペットボトルの中もきれいに洗ったりしていて、常々感心しております。先日、一般ごみのリサイクル率のデータを見たら、2013年のデータと古かったのですが、リサイクル率が24%と県内31市町村の内21位でした。なんでこんなに低いのだろうと思っております。町が決めている分別を守っていないのか、守っても足りない部分があるのか、どのようなところなのでしょう。</p>	<p>資源化について、寒川町は県内でもかなり上位に位置しており、資源化率も高いため、リサイクル率が20数%と初めてお伺いし、どのような状況なのだろうと思った次第です。寒川町は過去に焼却施設がありました。現在は茅ヶ崎市に焼却をお願いし、焼却最終処分場は県外にあります。</p> <p>これらのことから、町民や事業所に対し、環境づくり・環境対策について細かくお願いをしております。指定収集袋に対する協力もお願いしており、分別の徹底をしております。</p> <p>ゴミの集積場所が非常に限られており、今後の環境対策の中でも大きな課題の一つとなっております。</p> <p>先ほどお話があった、資源の回収率、資源化率について、後日、担当課から説明をさせていただきます。</p> <p>(副町長)</p> <p>数年前、環境経済部長として廃棄物に関する担当をしておりました。現在の寒川町は、通常の可燃ごみの</p>	<p>【環境課 資源廃棄物担当】</p> <p>別添文書により回答</p>

	<p>1人当たりの排出量は県内でもトップクラスの少ない数字を出しております。町長からお話があったとおり、指定収集袋の導入から、町民の皆様の意識の高さも見え、分別をさせていただいております。資源物と可燃ごみの分別対応やペットボトルについて、高い評価と高い売り上げをいただき、環境に還元させていただいております、</p> <p>可燃ごみの中にも資源に回せるものはまだあるため、町民の皆様に頑張ってもらっている分、行政がサポートしながら対応を行っていききたいと思っております。</p> <p>ご指摘された数字に関しましては、環境課の方に指示を出させていただき、分析と対応を行ってまいります。</p>	
	<p>(町民部長)</p> <p>以前、広域リサイクルセンターで場長を務めておりました。茅ヶ崎市との比較になりますが、同じ広域リサイクルセンター内の金属の資源化については、茅ヶ崎市より多くの金属の部類を設定し、可能な限りの資源化を町は行っております。</p> <p>後日、担当課の方から詳しい説明があらうかと思いますが、ご意見いただきながら、改善できるところはしっかりしていきたいと思っております。</p>	
<p>(コーディネーター) そろそろ、本日のまちづくり懇談会終了のお時間となりましたので、こちらへんで締めさせていただきます。他にも、ご発言したいことはあるかと思いますが、終了とさせていただきます。</p> <p>最後に、新しい試みのZoomで意見交換をするということで、木村町長から本日のご感想など、一言いただければと思います。</p>		
	<p>限られた時間の中ではありましたが、皆様から様々なご意見やご提言、あるいは実情や現状把握的な内容のお話をいただきました。ありがとうございます。</p> <p>これまで、対面式の懇談会を数多</p>	

	<p>く開催されましたが、発言される方が固定してしまうことが多々ありました。今日のように2つのテーマについて、広範囲に深掘りをしていただきましてありがとうございます。今後もこのような機会を作っていきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。</p>	
--	--	--

(コーディネーター) 私の方からも簡単な総括をさせていただきます。

コロナ禍による、まちづくり懇談会の未開催、町・町長に直接意見を言える貴重な機会を設けられなかったことは、町と町民にとって不幸な状況であったと感じております。私が会長を務めております、まちづくり推進会議にて、Zoomによるまちづくり懇談会について議論し、開催する運びとなりました。

コロナ禍において、行政の首長と直接意見交換ができる自治体は、全国的にみてほとんどないと思います。これは、寒川町の素晴らしい部分だと言えます。対面だけでなくZOOM等を活用して、常に町民と行政が意見を交わし合える環境づくりに努めていただければと思います。

また、まちづくり懇談会は開催が目的ではなく、あくまでも手段であり、本来の目的は数々の提言や意見を寒川町に反映させ、町を変化させていくことです。これを実現させるためには、行政だけでなく町民の役割も不可欠であり、行政と町民が共に手を取り合い、連携・協力することで1足す1が2ではなく、3や5といった大きな化学反応を引き起こしていくのではないかと感じております。まさにこれが協働の原点、まちづくりに大切なスピリットであり、寒川町の強みだと感じております。

最後に、初のZoom開催の不慣れな進行に対しご理解・ご協力いただきましたことに感謝申し上げ、コーディネーターの席を降ろさせていただきます。